

～浅草地域防災だより～

発行：浅草救急防災協会

帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG) [エリア対応版]で、地域の「共助」による 震災対策について考えました

新たに開発中のゲーム形式の防災図上訓練を東京大学・廣井悠教授と
SOMPOリスクマネジメント(株)の全面協力により開催

6月8日(月)14時から3時間にわたり、柳橋のベルmontホテルにて、浅草救急
防災協会の震災対策勉強会【拡大版】として27名の地域のみなさんの参加により、
帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)[エリア対応版]を開催しました。

今回のKUGエリア対応版の実施は、2年前に廣井先生に当勉強会でご講演いた
だいて以降、この「防災だより」を毎回お送りして活動状況を報告するなど、ご縁が
続いている中で、光栄にも都内で初めての試行という形で実現したものです。

また、訓練には近隣町会の方々や、
民間一時滞在施設として区と協定
を締結している企業の方などにも
ご参加いただくことができ、地域の
つながりを強めていくという意味で
も、たいへん有意義な機会となりました。
今回ご参加でない皆さんも、
ぜひKUGを体験してみませんか？



KUGでのグループの真剣な話し合いの様子

〈浅草地域防災だより・KUG特集号の内容〉

◇帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)[エリア対応版]の概要報告 →2・3面

◇廣井先生の講評、参加者アンケートの結果 →4面

●ことばの説明

「帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)」とは？「エリア対応版」とは？

東京大学の廣井教授とSOMPOリスクマネジメントが共同開発した帰宅困難者支援施設の運営を
実践的に訓練できるゲーム形式の図上訓練です。身近な地域の地図を囲み、地震発生後に次々と
発生する出来事や状況変化への対応について参加者同士で話し合い、解決策を考えます。今回新
たに開発されたKUG[エリア対応版]は、地域の事業者や住民(町会)などが協力して行う、地域ぐ
るみの帰宅困難者対策等を、実際の災害時さながらに疑似体験できることが大きな特徴です。

■KUGをやってみよう！（進行：SOMPOリスクマネジメント・宮田さん）

～実際の訓練よりも内容を一部省略して当日の雰囲気をお伝えします。

◇今回の訓練の条件設定

◎6月8日の14時（訓練の当日）、東京都心南部（大田区直下）を震源とするマグニチュード7クラスの大規模地震（首都直下地震）が発生

◎台東区 浅草地域では、震度6強の激しい揺れ

〈地震発生 1時間後（15時）の状況〉

○鉄道各社は、全線運転見合わせ。都心部では運転再開の見通しなし

○都心部を中心に広域で停電、断水

○電話はつながりにくく、携帯メールは届くまでに時間がかかる。SNSはつながる



宮田さん

発災当日 15時00分：安全確認・情報収集、現地本部へ集合

- 今回、訓練に参加したみなさんは、地域の災害対応活動に協力するため、声を掛け合い、「**現地本部**」に集まってきました（**5つのグループ**）。
- 現地本部**に集まったメンバーで、次々に起こる出来事への対応や、**帰宅困難者**の安全確保などのための**対策**を話し合います。

発災当日 16時00分：町会関係者から災害発生情報がいくつも

- 木造住宅が比較的多い街区で**火災**が発生。消防車はまだ到着しておらず、**火の勢いが強い**。隣に燃え移りそう。**やや強い西風**が吹いている。
- 江戸通りの歩道では、**神社の鳥居**が倒れたり、ビルの**看板やタイル、窓ガラス**が落下して**ガレキ**が散乱している。

発災当日 16時30分：さらに様々な困りごとが発生

- 浅草橋、蔵前橋、駒形橋では、橋を渡って浅草地域から区外へ出ようとする歩行者と、区外から浅草地域に入ろうとする歩行者が交錯し、動きがとれなくなっている。
- 区の防災情報によると、蔵前小学校、浅草寺病院に緊急医療救護所が開設されたが、**負傷者が殺到**しており、**軽傷者は自分達で対応して欲しい**との呼びかけ。

軽傷者の対応をと言われても、水を出すことくらいしかできない

帰宅困難者でも元気な人には手伝ってもらおう



外国人向けに多言語の掲示板を準備するとよい

一時滞在施設といってもどこかわからない。普段から広報しておかないと

発災当日 17時30分：夕方になって駅周辺に帰れない人があふれている

- 鉄道各社から本日中の運転再開はないと確認したが、各駅の周辺では、お年寄り、妊婦さん、小さな子ども連れなど、配慮が必要な人を含め、**大勢の人があふれている**。
- 江戸通りの歩道では、行き場のない多くの外国人観光客が座り込んでいる。

発災当日 19時00分：帰宅困難者一時滞在施設が開設された

- 帰宅困難者を受け入れる「**一時滞在施設**」が民間のビルで開設との情報。
→その後、受付の人が足りず、受付待ちの人で混雑しているという情報が来た。

発災当日 22時30分：小学校の避難所で住民と観光客などのトラブル発生

- 避難所となっている小学校で、観光客や行き場のない人々が大量に訪れて、避難所に身を寄せていた**地域住民とトラブル**が発生しているという連絡が来た。

～次々ふりかかってくる出来事に、各グループ、時に困惑しながらも対応を話し合いました。



発災翌々日 10時30分:地震発生から3日目(6月10日)

○天気は晴れ。今日は平年並みの気温で過ごしやすい陽気。

発災翌々日 11時30分:都や区からの呼びかけ

○都や区の公式SNSなどから、各地域へのバス輸送が始まったとの情報が発信された。
ただし、駅やバス停周辺で混雑が続いていることから、**一時滞在施設に対しては、混雑が緩和されるまで移動開始を控えるように滞在者に案内してほしい**との要請があった。

発災翌々日 14時30分:都や区からの呼びかけ(続報)

○都や区の公式SNSなどから、**駅周辺の混雑が落ち着いてきたこと**をふまえ、以下の情報が発信された。

- － **事業者は、従業員を一斉に帰宅させずに、分散帰宅させること**
- － **民間の一時滞在施設は、順次閉鎖すること**
- － **行き場のない帰宅困難者については、公共の一時滞在施設で受け入れること**
(都立忍岡高校、都立蔵前工科高校、台東都税事務所)

■今回の訓練(KUG)を通じて得られた「気づき」を共有しよう！

～5つのグループの発表のポイントを紹介します。

〈1-1グループ〉

いかなる行動をとるにしても、連絡や呼びかけをどのように組織的に行うかが一番難しい
ところで、商店街のネットワークを活かしたり、SNSの活用が必要になってくるのでは。

〈1-2グループ〉

企業としては、災害時は町会の方との連絡を密にして、避難場所等の伝達を行いたい。
一時滞在施設はテナント優先になるが、できる限り優先すべき妊婦さんや子ども、障害者などを優先して避難いただくようにしたい。

〈2グループ〉

この班では民間一時滞在施設の企業が2社あるので、帰宅困難者の受け入れの問題について話し合った。動ける社員は限られるとか、責任の問題とか、人数制限、夜間対応など、難しい問題が多くあることがわかった。

〈3-1グループ〉

災害の大小によっても動き方が変わるし、どう動くべきかがとても難しい。自分の企業の中で誰がどのような役割を持って地域に貢献していくか決めておかないといけないと思う。

〈3-2グループ〉

避難場所として、広い隅田川沿いの活用をもっと考えてもいいのではないかな。外国人に関する災害対応の問題について、普段から民泊の問題を含め、対応する必要があると思う。

■廣井先生からの講評

被災地に赴いた際、「備えたことしかできなかった」という言葉を被災された方々からよくお聞きします。今回使用した「KUG」は、事務局の専門的な知見を結集して作成したプログラムです。本日皆さまが議論の中で悩まれたポイントは、まさに災害直後にこの地域で誰もが高確率で直面するリアルな課題そのものと考えております。本日、この場で本音ベースの活発な議論が交わされたことで、情報共有や責任の所在など、「事前に対策をしておかなければ、いざ災害が起きたときに必ず後悔する」といった重要な気づきや意見を数多く共有できたのではないのでしょうか。



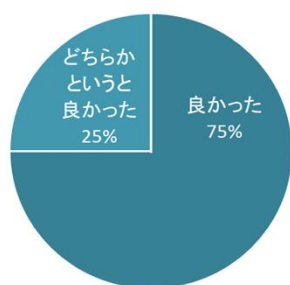
幸いなことに、私たちには備えるための時間がまだ十分にあります。これは共助の取り組みであるため、できることとできないことがあるのは当然です。その中で、「これだけはできる」という自社や地域の基準を見定め、そのために備えていくことが極めて重要です。特に帰宅困難者対策は、気温や時間帯、季節によって対応が大きく変わるため、一筋縄ではいかない難しい問題です。

本日とは異なるシナリオで演習を行えば、また別の視点から新たな課題が見えてくるはずです。ぜひ、できる限りの範囲で構いませんので、このトレーニングを一度きりで終わらせず、継続して取り組んでいただけることを切に願っています。

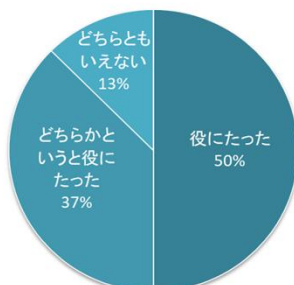
□参加者アンケートの結果（抜粋；参加者27名中 24名から回答）

～KUGの評価が高く、とても前向きで今後の活動につながる回答が多くありました。

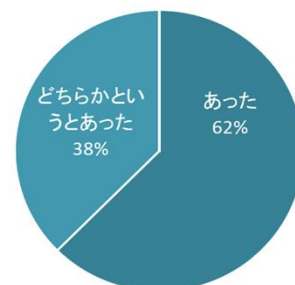
KUGに参加していかがでしたか？



KUGは、災害時に地域の関係者が連携した対応を行うためのイメージづくりに役立ちましたか？



KUGに参加して「地域で連携して取り組む防災」について認識を新たにすることはありましたか？



今回の「帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUGエリア対応版)」は、企業や町会関係者など、初めて参加された方も多く、たいへん画期的で有意義な取組となりました。この貴重な経験を、今後、地域防災力の向上に具体的な形でぜひ活かしてまいりましょう。



本ニュースレターに関するお問い合わせ先

浅草救急防災協会（事務局） TEL:090-3221-7698

（協力）一般財団法人 日本総合研究所

〒102-0084 東京都千代田区二番町5-7JPビル TEL:03-5275-1570